

美郷町合併20周年記念事業 第4回美郷町所蔵品展

—小西正太郎から大川清一まで— つながるコレクション展

本展では、これまでご寄贈いただいた芸術作品の中から、当町出身作家の所蔵品を展示します。近代・現代の表現者の作品との新たなつながりを通じて、寄贈者から託された思いとともにご覧ください。

小西 正太郎、高橋 清見、渋谷 重弘、
藤井 勉、泉谷 玄作、大川 清一

期 間◆12月1日(日)まで
会 場◆美郷町学友館

開館時間◆午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日◆毎週月曜日

後 援◆秋田魁新報社

入 館 料◆一般:300円 高校生以下:無料

※10名以上の団体は1人200円。

※障害者手帳またはミライID提示の方は100円引き。

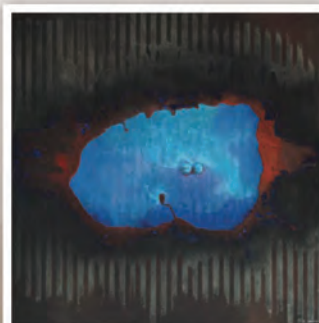
11月1日(町の日)、
11月2日(記念式典の開催日)は観覧無料



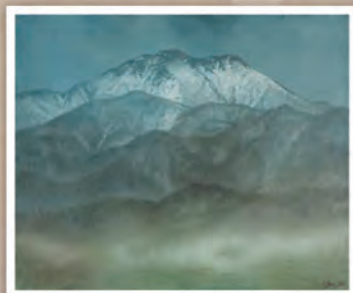
小西正太郎「バスケット選手」



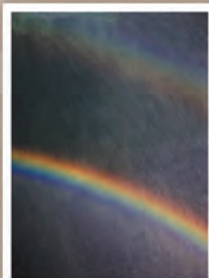
高橋清見「行く春」



渋谷重弘「原形質Ⅰ」



藤井勉「早春の真昼岳」



泉谷玄作「夏の虹」



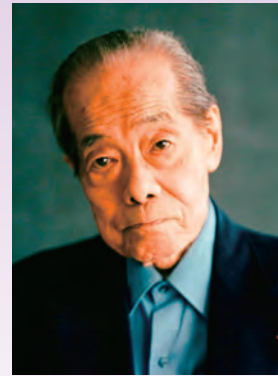
大川清一「櫛の森」

問●美郷町学友館 ☎0187(84)4040

報 討

美郷大使

高階 秀爾氏 逝去



美郷大使であり、美術評論家、前日本芸術院長の高階秀爾氏が10月17日に逝去されました。

高階氏は平成25年9月より美郷大使として、美郷町の風土、観光資源、魅力などの広い情報発信やまちづくりへのご提言をしていただくなど、町の振興に対してご尽力いただきました。

ご生前の功績を偲び、心からのご冥福をお祈りいたします。



■令和2年10月に行われた「美郷カレッジ」の講師としてご講演された高階氏

COLUMN WINDS

コラム

風

新たな挑戦

美郷町長 松田知己

美郷町はこの11月1日をもって満20歳。大きな節目を迎えました。こうした節目において人は何かを考え、その考えに基づいて将来を見通し、つまりは将来設計をするように思います。その設計パーツには、人生に関わる大きなことか、日常に関する小さなことかは別にして、大体何らかの「挑戦」があるのではないかと思います。

私事で振り返ります。まずは大学入学の節目。私は大学でやってみたいことを考えました。最初に浮かんだのが、バイクで野山を駆け巡ること。そこで、それを将来設計に組み込んでバイトをし、バイ



▲首都圏秋田県人会連合会が表敬訪問した際にあいさつをする松田町長

クを取得。林道ツーリングや北海道一周などを楽しみました。次は就職の節目。県庁に就職した以上は、県庁でしかできない経験をしてみたいと考えました。それが何なのかその時点でははっきりしませんでした。5年後に海外研修制度が創設され、私は「これだ」と思いました。その後、私はそのチャンスに応募（挑戦）し、結果、約20日間、海外で農業視察研修を経験させてもらいました。

こうした節目における考えやそれに基づく挑戦の積み重ねは、人の価値観に影響を与えることは申すまでもありません。美郷町の行政展開に少し挑戦的な取り組みが多いのは、そうした価値観がベースにあつてだろうと思います。

もちろん、一か八かの丁半博打のような判断はしておりません。しっかりと考えて挑戦しております。

さて、美郷町は先月、しっかりと考えた上で、化粧品や医薬部外品の成分を開発・提供する（株）テクノブル様と、その分野での美郷雪華酵母の独占利用契約を締結しました。独占ですので、今後その分野では他社に提供しません。そして、日本酒や味噌以外への用途拡大です。ともに挑戦の領域です。今後5年間、研究開発は進められますので、ぜひとも良い研究成果が出て、美郷雪華酵母や美郷雪華、ひいては美郷町の存在感向上に繋がってほしいものです。このタイミングでのこのチャンスは「偶然という名の必然」、つまり運命と捉えたいと思います。そうした捉え方こそ、結果に繋がるための起点であると、私は信じております。

私はクラシックも聴きますが、好きな作曲家の一人がベートーベんです。そのためか、契約締結式では私の頭の中で「ジャジャジャジャーン」というメロディが流れていました。第5番「運命」です（笑）。